

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

東陽倉庫株式会社（証券コード: 9306）

【据置】

長期発行体格付	BBB
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 中部圏及び関東圏を中心に事業を展開する総合物流企業。倉庫業、陸上運送業、港湾運送業などの物流事業に加え、倉庫跡地を活用した不動産賃貸事業を営む。物流事業では多国籍企業を筆頭に、食品、化学メーカーなどの優良荷主と長期にわたり良好な関係を築いている。顧客企業の在庫管理から生産計画の修正提案まで一括して請け負うデプロイ業務を行うなど、物流品質の高さが評価されている。不動産事業では17年6月に竣工した「テラッセ納屋橋」を中心に、継続的な利益貢献を果たしている。
- (2) 業績は底堅く推移している。景気変動の影響を受けにくい日用品や食料品などの取扱いが多く、貨物取扱数量は比較的安定している。顧客ニーズに応じたきめ細やかな物流サービスを強みに、主要顧客との取引関係も強固である。安定収益源である不動産事業は引き続き業績を下支えする役割を果たしており、今後も一定の収益力を維持できるとJCRではみている。財務構成は良好である。以上を踏まえ、格付を据え置き、見通しは安定的とした。
- (3) 23/3期営業利益は12億円（前期比12.0%減）の計画である。世界的なインフレや急激な円安進行に伴い、電力費や燃料費などのコスト増が影響する見込み。ただ、既存顧客との取引深耕や新規開拓による貨物取扱数量の増加に加え、経費削減や合理化にも取り組んでおり、厳しい事業環境下においても底堅く利益を確保できるとJCRではみている。24/3期以降は、小牧の新倉庫建設など物流事業の基盤強化が計画されている。こうした成長戦略が中期的な利益水準の底上げに繋がるか注目していく。
- (4) 23/3期第2四半期末の自己資本比率は49.9%（22/3期末51.3%）と、良好な水準を維持している。テラッセ納屋橋への投資が一巡した19/3期以降はネット有利子負債の削減が進んでおり、一定の投資余力を確保している。今後は新倉庫の建設など比較的高水準の設備投資が続く見通しだが、手元流動性の状況などを踏まえれば、財務の健全性が大きく損なわれる懸念は小さいとJCRではみている。

（担当）大塚 浩芳・村松 直樹

■格付対象

発行体：東陽倉庫株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	BBB	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2022年12月21日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：殿村 成信
主任格付アナリスト：大塚 浩芳
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「倉庫」(2020年5月29日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 東陽倉庫株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・格付関係者が提供した監査済財務諸表
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいで行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル